

水の大切さ

喜界町立喜界中学校 二年 小山こやま 勝利かつとし

母がこんな話をしてくれた。

「ケニア旅行をした時、地方に行けば行くほど水が無くてホテルでも節約してくださいと言われて、手を洗う時も体を洗う時も少しづつ水を出して使うようにしたんだよ。」

この話を聞いて僕は、自分たちが当たり前のように使っている水でも、とても貴重な物として大切に使っている地域の人もいることを知って驚きとともに水のない地域の人たちの生活を想像して悲しくなった。そこで、ケニアなどの水不足が過酷な国を調べて、水の大切さをより深く知るべきだと思った。

まず、日本の水道について調べた。水道普及率は九八パーセント、また漏水率は三パーセントで世界でも高い技術力があり、きれいな水を全国に供給できていることが分かった。それに対して海外では、二〇二〇年時点で安全な飲み水を確保できていない人は約二〇億

人いる。また、水がないことにより、毎年百五〇万人以上の子どもが感染症などでなくなっていると言われている。「アイシャの一日」という動画の中で、エチオピアに住む十三歳のアイシャという少女が朝早くから夕方近くまで約八時間かけて、家族のために水を汲みに行くというドキュメンタリーを見た。アイシャのように、水汲みをして生活を支えている子供は世界中にたくさんいる。

こんな現状を解決するために世界ではいろいろな取り組みが行われている。海水をろ過し飲料水や生活水として使えるようにする海水淡水化技術という技術や、下水中の菌をウイルスと活性汚泥を使って再利用する下水処理技術、また微生物を利用し水をろ過する生物浄化法などがある。どれも世界各地で行われているとても役に立っている。また、ケニアの水不足問題について調べてみると、ケニア北部に水と衛生をもたらす「ケニア・ラピッド」プログラムが行われている。このプログラ

ラムには、たくさんの会社が協力していて、IoT技術が用いられてる。

次に、自分が住んでいる喜界島の水はどのようなにして各家庭にきているのかを調べた。喜界島では、湧き水が五カ所と地下水が九カ所から取水し、塩素消毒を行いそれぞれの家庭に届けられていることが分かった。このようにいろいろな方法で水を得ることができている。

水は無限にあるわけではないし、水を確保できていない人々のことを知った今、自分の生活をふり返ると、かなりの水を無駄使いしてしまっていることに気付いた。水を節約するためには、これからは、歯磨きやシャワーの時に、無駄に水を多く出すことがないようにしたり、洗剤の量を減らすことで、すすぎの時に少ない水ですすげるようにしたりしようと思う。

調べてみて、世界各国で水不足が多発しているため、安全な水を確保することができな

い人が数多くいる。これにより、毎年たくさんの子どもが亡くなってしまっているというのが現状だ。この状況のままでは本当にいいのだろうか。と僕は不安を感じた。今も、この水不足の問題について世界各地でいろいろな取り組みを行っている。また、二〇五〇年には世界人口の半数以上の約五〇億人が安全な飲み水の不足に苦しむと言われている。このようならないためには、自分たちができることは、一人一人が節水を心掛けたり、世界各地の水不足問題を解決するために少しでもいいので募金したりして、これからの水不足の問題を解決できるような行動をとることが大切だと深く感じた。また、このことをたくさんの方が知ることができれば水不足の解決がより早く進むと思う。まずは身近な人などに自分が学んだ情報を発信していくようにしたい。